

「秋のレビュー」の27年度予算への反映等  
(概要版)

平成27年1月  
財務省主計局

# 基金の適正化について

## PDCAサイクルの機能強化

### ○ 骨太の方針2014

- ・基金の創設・積み増しを厳に抑制
- ・基金の執行状況を透明化
- ・基金の余剰資金の国庫返納を検討

### ○ 基金の法令上の枠組を整備

(補助金適正化法施行令の一部改正(26年10月22日))

- ・基金事業の性質を法令上明確化
- ・全ての基金の基本情報の公表及び執行状況の各府省への報告を義務化
- ・余剰資金の国庫返納を義務化

### ○ 「秋のレビュー」を受けた基金の点検の強化

(行政改革推進会議決定(26年11月28日))

- ・基金方式によらず実施できないか不断に検討
- ・各府省における「基金シート」の記載内容を充実するとともに、地方造成基金の情報公開の取組強化
- ・基金の余剰資金の有無を不断に見直し

○ 今後も、毎年度のPDCAサイクルを通じて、基金の適正化に向けて不断に取組

## 予算編成上の対応

### ○ 基金方式による実施が真に必要な事業に絞り込み

法律に基づく基金事業のほか、以下のような事業

- ・不確実な事故等の発生に応じて資金を交付する事業
- ・資金の回収を見込んで貸付け等を行う事業
- ・事業の進捗が他の事業の進捗に依存するもの

### ○ 基金への予算額を大幅に削減

26年度補正予算

基金への予算額 4,857億円  
(前年度比▲7,374億円)

27年度当初予算

基金への予算額 10,126億円  
(前年度比▲4,037億円)

※各府省からの聞き取りに基づくため、計数には異動がありうる。

### ○ 基金の余剰資金の有無を網羅的に再点検

- ・より精度の高い事業見込みを基に、基金規模を適正化
- ・執行促進を目的とした条件緩和等には、厳格に対応
- ・低調な執行が続く事業は、廃止を含め在り方を検討

### ○ 基金の余剰資金を最大限確保

27年度予算における公益法人等の基金の返納予定額  
2,639億円

# ○秋のレビューに係る27年度予算への反映状況

## 「秋のレビュー」の指摘の予算への反映例

### 事業名

### 「秋のレビュー」の指摘事項

### 27年度予算への反映

住宅確保要配慮者あんしん居住推進事業  
(国交省)

- 夏の公開プロセスで廃止判定を受けた事業の衣替えであり、抜本的な見直しが必要。
- 入居対象者の範囲の設定について、対象者の実態分析等を踏まえ、さらに検討する必要。
- 前年と同様の予算要求額は明らかに過大。

- 入居対象者を現に住宅に困窮している低所得の要配慮者（高齢者世帯、障害者世帯等）に限定。
- これらにより、要求額から大幅な削減を実施。  
※27要求：100億円→27当初：25億円（▲75億円）

理工系プロフェッショナル教育推進委託事業  
(文科省)

- 産業界のニーズを把握し、大学のカリキュラムの当該ニーズへの適合性を検証する必要。
- 50大学で事業を一斉に実施する前に、基礎的な調査をごく少数の大学に絞って実施すべき。

- 50大学で事業を一斉に実施することはやめ、工学系と農学系の大学をそれぞれ1つずつ選定。
- これらの大学において、産業界のニーズ把握と大学のカリキュラムの当該ニーズへの適合性の検証を実施。  
※27要求：50億円→27当初：1億円（▲49億円）

舞台芸術創造力向上・発信プラン（うちトップレベルの舞台芸術創造事業の子育て支援）  
(文科省)

- 舞台芸術関係者だけに保育費用を支援することは適切ではなく、やめるべき。

- 「舞台芸術創造力向上・発信プラン」における子育て支援に係る経費（2,200万円）は計上しない。  
※27要求：2,200万円→27当初：皆減（▲2,200万円）

「秋のレビュー」の指摘に基づく概算要求からの削減額（試算）は合計で▲1,000億円程度。